

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はるstep		
○保護者評価実施期間	R7年 10月 27日 ～ R7年 11月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38 (回答者数)	26
○従業者評価実施期間	R7年 10月 27日 ～ R7年 11月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職を配置し、知識や理論に基づいた支援やリハビリを行っている。	ABA・PECS・PEERS等、利用児の発達特性やニーズに合わせて理論やプログラムに沿った支援を提供している。 それぞれの専門職が専門的知識をもとに課題や活動の選定を行っている。	子どもや保護者のニーズに応じて他事業所の職員からの評価やアドバイスを取り入れている。
2	施設が広く、子ども・職員を交えて活発な活動を大人数で楽しむことができる。	運動支援に力を入れ、トランポリン・跳び箱・鉄棒等の用具を設置し、子どもが運動に興味を持てるようにしている。	特性や発達段階を考慮し、サーキット運動やリズム体操を日課としている。壁や床にも支援教材を貼り、有効活用している。
3	子どもの動線に合わせて、活動の場・学習室・食事（おやつ）スペース等、構造化されている。	既存施設の有効活用をしている。 スペースやルールを視覚化し、どの利用児にも分かりやすい環境にしている。	学習室の人数が多い時には、パーティションを活用したり、時間を区切って個別対応できる環境を作ったりしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の大きさや交流会の有無、避難訓練の実施等について保護者が分からないと思うところがある。	利用児の様子等、直接支援に関係すること以外の内容について保護者へ情報共有する機会が少ない。	SNSを有効活用し、日常の活動以外も保護者へ伝わるようにしていく。
2			
3			